

国立大学法人福井大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

福井大学は、学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成と、独創的であつ地域の特色に鑑みた教育科学研究、先端科学技術研究及び医学研究を行い、専門医療を実践することを使命としている。第2期中期目標期間においては、21世紀のグローバル社会において、高度専門職業人として活躍できる優れた人材を育成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、教職大学院の学校拠点方式を全国展開するため、全国12大学との連携・協力による「教師教育改革コラボレーション」を設置するとともに、東アフリカの医療水準向上に寄与するためウガンダに「外傷医学マケレレ教育センター」を設立するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大学改革を総括し具体案等を策定するため役員・学部長・学長特別補佐で構成する「大学改革推進特別会議」及び各理事を長とするワーキンググループを新設し、学長のトップマネジメントを効果的に発揮できる全学運営体制を構築している。

平成24年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 平成23年度評価において評価委員会が課題として指摘した、大学院博士課程について、学生収容定員の充足率が平成21年度から24年度において90%を満たさなかったが、平成25年度においては入学定員を見直すなどの取組により、90%を満たしている。今後も引き続き、定員の充足に向けた取組に努めることが望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を上回って実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- 〔①外部研究資金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善〕

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学内の共同利用設備をオンラインシステムに登録することにより効率的な利用を促すとともに、共同利用設備の件数を拡大し、地域企業などからの技術相談や共同研究にも活用されている。
- 毎月開催される附属病院経営戦略企画部会において、月次損益の報告を行い経営状況を把握するとともに、経営データに基づいた分析を行い、後発医薬品の採用促進、医療材料・医薬品の契約単価の見直し等を行った結果、対前年度比約 1 億 5,700 万円の経費削減となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- 〔①評価の充実、②情報公開等の推進〕

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 平成 24 年度より広報センター長を学長とするとともに、元新聞記者で私立大学の広報室長を歴任した者を参与に採用し、読み手を意識したプレスリリース、卒業生にスポットを当てた地元新聞へのシリーズ広告、ソーシャル・ネットワーキング・サービスの開設等、多様なツールを駆使した情報発信に取り組んでいる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- 〔①施設設備の整備等、②安全管理、③法令遵守〕

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組が求められる。
- 附属病院で「麻薬及び向精神薬取締法」の規制対象である麻酔用の塩酸コカインが紛失（残量の不足）する事例があったことから、管理・保管体制について徹底した見直しを行い、再発防止に向けた積極的な取組を行うことが求められる。

【評定】 中期計画の達成のためにはやや遅れている

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成23年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われているが、教員等個人宛ての寄附金について個人で経理されていた事例があったこと、附属病院で薬品を紛失する事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教職大学院では、地域の小中学校等の拠点校を教室とする「学校拠点方式」による教師教育改革を全国展開するために、国公私立大学12大学からなる全国規模でのネットワークを構築し、大学間連携を強化することにより教師教育の質保証を全国的に実現する取組を推進している。
- 大阪大学、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学の連合小児発達学研究所に参画して、「子どものこころのゆがみ」に科学的視点を持って対処できる高度専門職業人の養成に取り組んでいる。
- 国際的な視野からの教育評価を行うため、海外先進大学等14機関の視察・ベンチマーキングを実施し、米国の社会や業界からの要請を踏まえたカリキュラム構成等を報告・検証する「FD・SDシンポジウム2013」を開催している。
- 学生に就職支援情報をタイムリーに提供するため、ウェブサイト、携帯メールを活用したきめ細かい就職支援を継続実施したこと等により、マスコミの「2012年就職特集第1弾全国240大学就職率ランキング」において、卒業生数1,000人以上の国公私立大学の中で就職率「第1位」と公表され、国立大学では5年連続「第1位」となっている。
- 研究者等の意欲を高め研究の活性化を図ることを目的に、間接経費等取得者に対する報奨金支給制度の運用を開始し、また、科学研究費助成事業の未申請者数の割合に応じて各部局の基盤経費を削減することを決定している。
- 新たに、福井県、福井市及び福井商工会議所と包括的連携協定を締結し、福井商工会議所とは、工学部・工学研究科の教育カリキュラムに企業側の意見を反映すること及び大学の語学センターを企業に開放することを決定している。

- 東アフリカの医療水準向上に寄与するため、引き続き独立行政法人国際協力機構の人材育成集中修学プログラム事業に参画し、8名の外国人受託研修員を受入れるとともに、国際整形災害外科学会と協力してマケレレ大学（ウガンダ）に「外傷医学マケレレ教育センター」を開設し、東アフリカ地域の若手外傷医師の育成を行っている。
- 附属学校園では、教員養成・実習の拠点校として、教育実習生や教職大学院の長期インターンシップ等を受け入れ、教育研究集会・授業公開等を継続的に開催しているほか、幼稚園教諭や小学校教諭を対象とした教員免許状更新講習を、幼稚園の公開保育とタイアップして実施し、幼児期から学童期への育ちの連続性の理解を促進している。

附属病院関係

（教育・研究面）

- 県内の緊急被ばく医療体制を図るため、緊急被ばく医療に強い救急総合医養成プログラム専門医養成コースを3名が受講し、地域で働く医師としての総合的な幅広い診療能力に加え、緊急被ばく医療にも専門性を持つ医師を養成している。

（診療面）

- 院内感染防止対策の地域における推進を目的として、全県を対象とした連携病院会議を設け、主要6病院すべてと相互訪問による評価を行うなど、県内全体の感染対策の中心となって活動している。

（運営面）

- 病院長のリーダーシップの下、通院治療センターの拡充、授乳室・おむつ室の拡充等、病院施設に関する諸課題の解決を図り、また、病棟薬剤師の配置、診療情報管理士の採用、育児中の女性医師を勤務可能な時間帯に合わせて雇用する短時間正規雇用制度の適用を受けた特命職員の採用、医療ソーシャルワーカーの採用等、医師・看護師の負担軽減や医療現場の職場環境の向上を図っている。